

教育広報

南 会

編集・発行 福島県教育庁南会津教育事務所
 発行責任者 佐藤 則之
 編集協力 市町村教委連絡協議会南会津支会
 南会津郡小中学校長協議会



『遊び基地』

檜枝岐村教育委員会教育長
平野 信之

タレント所ジョージさんの世の中の楽しみ方に憧れ、「世田谷ベース」のような遊び基地を自分もいつか持ちたいと考えていた。昨年春、定年を迎えた会社人間の悲哀を描いた映画「終わった人」を見て、「組織人間のままでは楽しい隠居生活はない。『始まった人』にならなければ。」と感じ、現役のうちに遊び基地を確保しようと一念発起し建築に着手した。

所さんほど資金に余裕がないので、近所の大工さんに相談して最低限の仕事はやってもらい、あとは流行の「Do It Yourself」でやろうと考えた。9月上旬に大工さんの仕事は終了。週末は家の事は全くせず「DIY」に没頭、材料や道具が頻繁に届いて妻にはあきらめ顔をされる始末。全て大工さんをお願いした方が安価で家庭円満だったかもしれない。しかし、それ以上に物作りの楽しさに引き込まれ、「職業選択を間違った。役所仕事は向かない。」

と思いながら週末を待ち遠しく机に向かう日々。何度も挫折しそうになりながら、その都度、大工さんにアドバイスをもらって11月末にやっと完成。そして、雪国の暮らしを楽しむのに必要なアイテムである薪ストーブが、12月上旬、北海道のストーブ工房から届いた。欧米製の高級品ではないが、ピザプレートが付いて、オーロラのように舞う炎が見える前面耐熱ガラス仕様だ。燃やし始めて30分すると空気が柔らかくなり、2時間もすれば室温は30度を超え、遠赤外線効果と視覚的な暖かさが相まってTシャツで居られる。手間暇かけた部屋で、金属音がする程に冷えたビールにピザ。自己満足に浸れる幸せな時間が過ごせる。

人生百年時代を生きる私たち。老後の不安は多少あるが、一人一人が仕事も遊びも攻めて守らずのポジティブな精神で、新元号の新たな時代を楽しみたい。



『子どもたちに感動を』

福島県教育庁南会津教育事務所
業務次長兼学校教育課長

井上 久仁夫

私の机上には円柱型の水槽があり、3種類のメダカが泳いでいます。エアポンプもなく、濾過材代わりの砂と水草が入っているだけですが、数年生き続けることができます。自宅では手乗りのオカメインコと小桜インコが飛び回り、水槽も4つほど。子どもの頃には、様々な容器にカブトやクワガタが数百匹、アリジゴク・正体不明の透明な卵(あとでナメクジの卵と判明)・金魚・ヤゴ・サワガニ・ヤドカリ・イシガメ・タガメ・ミドリガメ・ドイツゴイなどなど。春にはさなぎから孵った蝶が飛び回ったり、オオカマキリが孵化して部屋中にかわいい赤ちゃんの行列が見られたりして……。思い起こせば、羽化したばかりの羽も脚もすべてが真っ白な鈴虫や羽の白いカブトムシ、脱皮したばかりのピンク色のやわらかいザリガニを何時間も見ている子どもでした。

父も生き物は何でも好きでした。しかし母は大の生き

物嫌い。自宅で飼ってる猫を触ったことがないくらいでしたから、虫などなおさらです。でも、母は家の中どんな生き物を持ち込んでも叱ることはありませんでした。ましてや夏の早朝に街灯の下を回り、夜に集まった虫を取りに連れて行ってくれたのも母であり、深夜、電灯片手に私を背負い、1キロほど離れた神社の境内でセミの羽化を見せてくれたのも母でした。おかげで生命の不思議・すごさに感動しながら、生き物に関してだけは『自ら学ぶ意欲』を持った子どもになりました。

時代とともに家庭環境も大きく変わりつつありますが、親の子どもへの愛情の深さは変わっていないと信じています。保護者の「こんな人間に成長してほしい」「豊かな体験をさせたい」といった様々な願いや受け止め、子どもたちの「見たい・知りたい」「こんな人になりたい」という思いを大切にしながら、子ども一人一人の可能性が広がっていく子育てを支援していきたいものです。

南会津がつむぐ 南会津ならではの学校教育！
～ 郷土を愛し、夢や希望をもってともにたくましく生きる子どもの育成 ～

「家庭学習の充実に向けた実践を行っている学校」への訪問
～只見町立只見小学校・南会津町立南会津中学校～



「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」をもとに、家庭学習の充実に向けた特色ある実践を行っている只見小学校と南会津中学校を訪問しました。この訪問は、両校の取組を把握するとともに、その実践を広く域内、県内に普及させ、学力向上に資することを目的として行いました。

＜只見小学校の実践より＞

- ・ 児童が計画的に家庭学習に取り組むことができるよう、毎日の帰りの会の時に「家庭学習計画タイム」を設定し、その日に取り組む内容を記入している。
- ・ 1学期最初の保護者懇談会において取組の説明を行い、保護者の協力を得るようにしている。



＜南会津中学校の実践より＞

- ・ 「家庭学習スタンダード」をもとに「家庭学習90プラン」を作成し、生徒の発達の段階に応じて具体的な家庭学習時間を設定している。
- ・ 学校だよりを中学校区全戸へ回覧し、地域への周知を図っている。

学校での勉強(授業)と家庭学習は車の両輪
家庭学習90プラン
(月に90分)

授業 ← 家庭学習

真実に集中して 必ず役にたつ

毎日やる(10分程度) 毎日やる(10分程度) 毎日やる(10分程度)

1年生 90分を確保して 2年生 90分を確保して 3年生 90分以上を確保して

今頑張らなくていつ頑張る!

2つの学校に共通していることとして、「児童生徒の『自覚を促し、気付かせる』ことに留意し、計画の立て方や時間の管理の仕方を工夫している」「保護者の協力や支援が得られるように、家庭や地域へ積極的に周知している」ことが挙げられます。「家庭学習スタンダード」の「家庭・地域の3つの視点」「学校の4つの取組」とともに、この両校の取組を参考にして、それぞれの学校で家庭学習の充実を図ってください。

道徳教育の推進に向けて
～地区別推進協議会・地区別研修会～



11月12日(月)、推進校である館岩中学校を会場に道徳教育地区別推進協議会が行われました。当日は、菅野千春先生の授業と宇都宮大学准教授 和井内良樹先生による提案授業が公開されました。二人の先生が実践された「トリオ学習」によって、自分の意見を伝えたり、相手の話に耳を傾けて聞いたりする生徒の姿が見られました。「考え、議論する道徳」をどのように実践していけばよいか課題となっている中で、生徒の主体的な対話を生み出す「トリオ学習」は、参観者にとって大いに参考となるものでした。



8月7日(火)に実施した地区別研修会では、評価の在り方を中心に研修を深めました。次年度には「特別の教科道徳」が、中学校でも完全実施となります。館岩中学校の取組やこれまでの研修資料、「道徳のかけ橋」等を参考にしながら、自校のよりよい道徳教育の推進に向けて取り組んでください。



学校保健の充実のために
～域内養護教諭等研修会～



2月7日(木)、御蔵入交流会において、域内養護教諭等研修会が行われました。

まず、平成30年度健康教育指導者養成研修を受講した館岩小学校の菊地明実先生より、4日間の研修の伝達講習がありました。今後の保健教育の在り方や進め方についてポイントを絞って説明していただきました。次に、健康教育課 長尾有里指導主事より、「本県の児童生徒の健康課題とその対応」をテーマに、本県並びに南会津の大きな課題である「肥満」を中心に、その実態と具体的な対応について講義がありました。

最後に、「肥満」「う歯」「性」の班に分かれて研究協議を行い、自校の課題解決に向け取り組んでいること、今年度の取組で成果のあったこと等をお話しました。肥満解消に向けた取組として、「肥満対応ガイドライン」を積極的に活用した実践、栄養教諭と連携を図った実践などが紹介され、参加者は継続した肥満指導の必要性を再確認することができました。域内の肥満出現率低下のために、学校全体での取組をお願いします。

